

たんぽぽ学級の取組

(1) 実践内容 「自然となかよし」

年間を通し、校庭の植物の観察を続けたり、生き物と触れ合ったりして、五感を使って季節や季節の移り変わりを感じさせたい。また、活動する中で人との触れあいも大切にしていきたいと考え、実施してきた。

ア「春とあそぼう」

- ・校庭の観察

4月5日には、春の草花の観察をし、草花遊びを行った。学級の畑のジャガイモを観察したり、草抜きや水やりなどの世話をした。

- ・草花遊び

四つ葉のクローバーをさがしてしおりを作ったり、クローバーの花の首飾りや冠を作ったり、カラスノエンドウの笛やオオバコのすもうを楽しんだりした。また、秋に実るであろうぎんなんや柿の実の青い物も写真に納め、継続観察をして比べる材料にしようと考えた。

- ・こいのぼり

4月後半から当番を決め、国旗掲揚塔にこいのぼりを上げた。

イ「夏をかんじよう」

- ・校庭の観察

校庭の青々とした木々を見て回った。

実り始めた青い実を見てもぎんなんや柿を思い浮かべる児童は少なかった。

- ・いもほり

じゃがいもの葉が枯れてきた頃、みんなでいもほりをした。茎を引っぱると付いてくるじゃがいもを見てまず歓声が上がる。とれたじゃがいもは、蒸して早速味見をしてみた。何もつけなくてもほくほくしておいしい。おかわりをして食べる子もいた。また、5年生のキャンプ前のカレー実習にも使い、みんなで味わった。

- ・アサガオ・トマト・ホウセンカの観察

1・2・3年生がそれぞれ育てている植物も、季節を感じる良い材料となった。ミニトマトは収穫もでき、他学年の児童も味わった。

- ・たなばたまつり

七夕に向け、短冊に願い事を書いたり、飾りを作ったりした。七夕会では、夏の味覚スイカを味わった。初め「スイカは嫌い」と言っていた児童も皆と一緒に食べることができた。

ウ「秋をあじわおう」

- ・柿の収穫

今年も柿の収穫を楽しみにしていたが、実が少なく熟すのを待ってから食べようと話をしていた。ところが数日後、柿の木には何もついてなくて児童はがっかり。最近増えたカラスに食べられた可能性が大きい。

- ・ぎんなんの収穫

児童みんなでビニルの手袋をして、ぎんなん拾いをした。今年も大きいイチョウの木に実がなった。においが強いので嫌がる児童には「銀羊苑にプレゼントしに行くよ」と声をかけ、無理をさせないように少し拾ったらよいことにした。しっかり洗って干したぎんなんをみんなで袋詰めした。そして、電子レンジで加熱したぎんなんをみんなで味わった。苦手な児童もいたが、もっとほしいという児童もいた。給食にも出ていることを知らない児童もいた。

- ・ハロウィン



【首飾りとたんぽぽ人形】



【みんなでぎんなん拾い】

図工の時間を使ってハロウィンの衣装を作った。英語の時間に仮装をし、ハロウィンに係る言葉を学び、雰囲気を楽しんだ。

- ・銀羊苑訪問

銀羊苑で鳴子踊りを見てもらうために運動会終了後練習を始めた。当日、デイサービスの利用者にも鳴子を配り、一緒に鳴らしてもらった。児童は、衣装を着て一生懸命踊った。終わった後、お礼に歌を歌ってもらったり、握手をしたりして、満足げであった。

- ・さつまいもの収穫

みんなで畑に集まり、いもほりをした。今年は夏の日照が続き、収穫がどうなるか心配をしていた。

例年より、つるが少なく引っ張ってついてきたさつまいもも、児童一人に一つもないくらいだった。「少ない量でみんなで食べられるものを」と考え、今年はスイートポテトぎょうざを作ることにした。

総合学習発表会前日、高学年でさつまいもの皮をむき、ぎょうざの餡を作っておいた。そして、当日はスイートポテトぎょうざを作って家族と共に食べた。



【スイートポテトぎょうざ】

- ・小松菜・ほうれん草の種まきと観察

ベランダのプランターにみんなで小松菜の種まきをした。本当に小さな種で、手にくっつくほどだった。ときどき観察をして、草取り・水やりをした。児童は収穫を楽しみにしていた。

エ「冬をたのしもう」

- ・まんまるリース作り

今年はさつまいものつるが少なく、つるのリースは断念した。その代わり、紙で作る「まんまるリース」にした。自分で好きな色を3色選び、たくさんの円を切る。曲線を切ることが難しい児童もいたが、よい練習の機会になった。あまり工作が得意でない児童もかわいい作品ができあがった。



【まんまるリース】

- ・クリスマス会

英語の時間にクリスマスビンゴや色ぬり、クロスワードなどを楽しんだ。

- ・小松菜・ほうれん草の収穫

ベランダで育てたものをおひたしにして食べた。どの児童も「おいしい」と言ってうれしそうに食べた。

(2) 実践の反省と課題

本年度は、在籍児童が増え交流の学級も増えたので、時間割の調整が困難になり、生活単元学習の時間を確保することが難しかった。さらに自然が相手の取組なので、計画通りに進まないことが多かった。

総合学習発表会で作ったスイートポテトぎょうざは意外性があり、児童にも保護者にも好評だった。発表会の終わりには黒板に貼ってあるレシピをスマートフォンで写真に撮って帰った保護者もあった。後日、児童からは「ママにもう一回作ってもらった」「おばあちゃんと一緒に作ったよ」という声を聞くことができた。

自閉症・情緒障害学級に在籍する児童の多くが交流学級での総合学習に参加することができているので、参加が難しいと感じられる児童を中心に活動の計画を立て、より多くの時間数を確保し、将来の生活につながる学習の機会を増やしたい。